

高岡短期大学生の価値観とスポーツライフに関する調査研究

久湊 尚子・尾崎 秀男
(内田)

(平成4年11月6日受理)

要 旨

この調査の目的は、高岡短期大学の体育の在り方や方向性を見直すために、学生のスポーツ観やスポーツ活動といったスポーツライフを把握することである。この調査の対象は、体育授業を履修している一年生全体である。価値観を表す25項目から因子分析により6つの因子を抽出し、その因子の特徴を持つ割合によって学生を7つのタイプに分類した。それぞれのタイプにより、スポーツ観やスポーツ活動への関わり方に違いがあることが明らかになった。

キーワード

価値観、スポーツライフ、体育授業、スポーツ観

1 はじめに

1.1 研究の動機

現在、それぞれの大学において様々な改革がなされようとしている。大学体育においても全国的に変革を強いられ、その在り方が問われている。このことを考えるとき、謙虚にこれまでの大学体育の実践を反省しなければならないだろう。それは、単に時代の流れの変化として片付けられるものではなく、体育実践そのものへの批判や大学の研究者の主張と実際のギャップに対する批判の現れとみることが出来るからである。

これからの大学体育は、それぞれの大学の求める理念と特性に照らし合わされた個性的な授業内容を提供していくことが必要になってくる。そのため、今までにも増して受講生のスポーツへの考え方や行動の仕方について具体的に把握することが重要になってきてい

る。

スポーツ行動については、これまでも「スポーツを行っている人、いない人」といった行動結果に基づいた意識比較について数多くの考察がなされてきた。しかし、これらはスポーツをどう位置付けた結果として行ったのか、または、行いたくなかったのかという行動を生み出す根源部分について考察しきれていない。この問題を探る研究として、商品の動向を探るための消費者行動研究の成果を応用した形が¹⁾体育学の分野でも近年試みられており、運動者行動や運動生活を決定づける要因として価値観に注目している。これは、それぞれ持っている価値観の違いによって、現れる行動パターンは変わってくるはずであり、その価値観の傾向を把握することで、現状行動と比較しながら次に現れてくる近い将来の行動を推定し、対処しようとするものである。

今回の調査研究はこの概念に基づき、高岡短期大学（以下高岡短大と略す）の学生の価値観とスポーツライフの現状を捉えようとするものである。

1.2 高岡短大の体育授業の特色

高岡短大では、体育の授業実践の中でいくつかの工夫が試みられている。具体的には、週に一度の身体活動の場をいつも確保できるよう、一年次に必修の体育実技と保健体育理論を各時として区切らずに一時限の中で融合させ、関連付けながら実施している。その一時限を基本としながら、幅広い生涯スポーツへの選択の可能性を目標とし毎時間異なる運動種目を取り入れている。

また、運動することの「楽しさ」を実感する一助として授業中に音楽を使用し、「意欲を高める」「リラックスさせる」「コミュニケーションを円滑にする」等の効果を得ている²⁾。授業形態としては、協力し合いながら自ら行動する力を養えるよう一年間を通してグループ制を採っている。

これらの実践の中で、1990年度から1991年度にかけてのアンケート調査による学生の感想で多かったものは「おもしろい、自由、楽しい、沢山の種目が経験できて嬉しい」等であった。

1.3 研究の目的

高岡短期大学での体育授業を受講した一年生に対して行われたアンケート調査の結果をもとに、学生を価値観の違いによっていくつかのタイプに分類し、タイプごとのスポーツライフの実態を明らかにし、体育授業の受け止め方やスポーツ観の特徴を把握することにある。

2 調査内容

「ライフスタイルについて」

価値観の類型化をはかるために、アメリカ

のダニエル・ヤンケロビッチによって提唱されたニュールール⁵⁾に対し、鮑戸⁵⁾ら伊藤¹⁾らが日本人や大学生の価値に合うよう編集したものを参考に、12項目を選んだ。また、高岡短大生に固有な価値を表す質問項目として、伊藤¹⁾らの「筑波大学生の価値観」を参考に富山県^{6),7)}での特徴を含めた13項目を作成し、合わせて25項目とした。それらは表2に示した項目群であり、各質問項目に、「そのとおり」「だいたいそうである」「あまりそうでない」「そうでない」の4段階で評定してもらった。

「スポーツライフについて」

体育の授業に関する内容（必要性、履修制度）と、授業以外の活動内容（活動の有無、活動内容、活動の妨害要因）とに分けて調査した。また、スポーツ全体に対する思考様式³⁾を把握するためのスポーツ観について、大木³⁾らの調査を参考に作成した項目により調査した。

調査期日 平成4年2月5日、6日

調査対象 高岡短期大学 1年生 208人

有効標本数 199人（回収率95.7%）

調査方法 質問紙法 体育授業中に配布、その場で回収した。

表1 調査票の回収状況 (人)

| 学 科 (専攻) | 配布 | 回収 | 男子 | 女子 |
|-------------|-----|-----|----|-----|
| 産 業 工 芸 | 78 | 72 | 19 | 53 |
| 金 属 工 芸 | 20 | 16 | 6 | 10 |
| 漆 工 芸 | 18 | 16 | 4 | 12 |
| 木 材 工 芸 | 16 | 16 | 4 | 12 |
| 産 業 デ ザ イ ン | 24 | 24 | 5 | 19 |
| 産 業 情 報 | 130 | 127 | 8 | 119 |
| 経 営 実 務 | 43 | 43 | 1 | 42 |
| 情 報 処 理 | 40 | 39 | 7 | 32 |
| ビ ジ ネ ス 外 語 | | | | |
| 英 米 コ ー ス | 30 | 29 | 0 | 29 |
| 中 国 コ ー ス | 17 | 16 | 0 | 16 |
| 合 計 | 208 | 199 | 27 | 172 |

3 結果と考察

3.1 高岡短大生における価値観の類型化

高岡短大生に対し、いくつかのタイプによる分類を試みる。

まず、価値観をとらえるために25項目について評定してもらったが、この項目群は個々バラバラではなく互いに関連を持つものがあるはずである。互いに関連する項目を見つけ出し、その共通する因子を考察する手法が因子分析という統計解析法である。

この因子分析（主因子抽出法、バリマックス直交回転）を適用した結果、6個の因子が抽出された。表2の因子負荷量の数字は、高ければ高いほど各項目がその因子と深く関わっていることを示している。以下に因子一つ一つの特徴を見ていくことにする。

3.1.1 価値観の因子の抽出

(1) 第1因子

この因子と関わりの深い項目としては、「将来設計や就職に対して、今最も関心がある」、「学業の成就に今最も関心がある」、「就職してから必要な技能や資格は学生のうちに取得しておきたい」、「派手に目立つことよりも、地道に努力する方が好き」等である。これらは、自分の将来に役立つと思われることを学生のうちにしっかりやっておこうという地道なまじめさを表していることから「堅実志向」因子と呼ぶことにする。

(2) 第2因子

この因子は、「休日などは一日ボーッとしたい」、「スポーツは自分で行うより、観て楽しむ方が好き」、「リーダーになって苦勞するよりは、のんきに人に従っている方が気楽で良い」と関わりが深く、また「自分は、意志の強いどちらかという攻撃的な性格である」に負の相関がある。これらは、自分の道を自ら切り開いていく積

極的態度に欠け、のんびりとした様子であることから「消極志向」因子と呼ぶことにする。

(3) 第3因子

これは、「自分がやりたいと思ったことは、たとえ一人でも実行している」、「自由時間を楽しむための方法を5つ以上知っていて、多く実行している」、「他人のことはあまり気にしないで、自分の生活を大切にすることである」等の項目と関連が深く、自分の生活を大切にし、満足を得たい志向と関わっていることから「自己充足志向」因子と呼ぶことにする。

(4) 第4因子

この因子は、「スポーツを楽しむよりもアルバイトでお金を稼ぐ方が好き」、「流行やファッションには敏感で出来るだけ情報を得るようにしている」、「アルバイトでお金をためてば一っと使いたい」等の項目と関連が深い。これは、生活に彩りを与え、人生を気ままに生きていこう、楽しもうという志向の内容と思われるので「享楽志向」因子と呼ぶことにする。

(5) 第5因子

これは、「何がなんでも成績は優がとりたい」、「大学生の本文は勉学に励むことなので、少々の誘惑に負けずに授業に出席する」等の学業の達成に関わる項目と関連が深いことから「学業重視志向」因子と呼ぶことにする。

(6) 第6因子

この因子は、「伝統的な宗教的習慣にあまりこだわらないで生活する方が良い」に負の相関を示しており、「古いものは、長い間ずっと受け継がれてきたものなので大切にすること」、「自分のことを考える前に他人のことを考える」の項目に関連が深く、他者志向を含んだ伝統的な考え方を表しているため「伝統志向」因子と呼ぶことにする。

表2 高岡短大生の価値観に関する25項目の因子分析の結果

| 項 目 | (バリマックス回転後の因子負荷量) | | | | | | COMMUNALITY |
|-------------------------------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 因子1 堅実志向 | 因子2 消極志向 | 因子3 自己充実 | 因子4 享楽志向 | 因子5 学業重視 | 因子6 伝統志向 | |
| 将来設計や就職に対して今最も関心がある | 0.77 | 0.09 | 0.03 | 0.03 | 0.05 | 0.17 | 0.65 |
| 学業の成就に今最も関心がある | 0.56 | 0.02 | 0.02 | 0.05 | 0.18 | -0.13 | 0.43 |
| 就職してから必要な技能や資格は学生のうちに取得しておきたい | 0.40 | 0.05 | 0.11 | -0.01 | 0.17 | 0.06 | 0.25 |
| 派手に目立つことよりも、地道に努力する方が好き | 0.33 | 0.29 | 0.02 | -0.06 | 0.12 | 0.23 | 0.28 |
| 休日などは一日ぼーっとしていたい | 0.02 | 0.66 | 0.03 | -0.02 | 0.08 | -0.16 | 0.50 |
| スポーツは自分で行うより観て楽しむ方が好き | 0.19 | 0.58 | -0.09 | 0.17 | -0.28 | 0.05 | 0.49 |
| 自分は意志の強いどちらかという攻撃的な性格である | -0.02 | -0.43 | 0.16 | 0.34 | 0.12 | -0.38 | 0.50 |
| リーダーになって苦勞するよりは、のんきに人に従っている方が気楽で良い | -0.16 | 0.42 | -0.10 | 0.03 | -0.03 | -0.11 | 0.27 |
| 自分がやりたいと思ったことは、たとえ一人でも実行している | 0.12 | -0.12 | 0.65 | 0.07 | -0.01 | -0.04 | 0.46 |
| 自由時間を楽しむための方法を5つ以上知っていて、多く実行している | -0.04 | -0.02 | 0.57 | -0.04 | 0.15 | 0.11 | 0.49 |
| 他人のことはあまり気にしないで、自分の生活を大切にしている | -0.07 | -0.04 | 0.53 | -0.03 | -0.19 | -0.18 | 0.36 |
| あまり収入は多くなくても、やりがいのある仕事につきたい | 0.20 | 0.10 | 0.31 | -0.23 | -0.11 | 0.26 | 0.31 |
| 自分のやりたいことがほとんど出来なくて生活がつまらない | -0.04 | 0.01 | -0.11 | 0.07 | 0.01 | -0.06 | 0.42 |
| スポーツを楽しむよりもアルバイトでお金を稼ぐ方が好き | 0.06 | 0.22 | -0.01 | 0.63 | -0.19 | -0.04 | 0.51 |
| 流行やファッションには敏感で出来るだけ情報を得るようにしている | 0.07 | -0.21 | -0.09 | 0.55 | 0.24 | -0.02 | 0.45 |
| アルバイトでお金をためてばーっと使いたい | 0.10 | 0.04 | 0.05 | 0.36 | -0.02 | 0.02 | 0.28 |
| アルバイトは何か大きな目的のためにしている | 0.14 | 0.08 | 0.26 | 0.29 | 0.10 | 0.16 | 0.25 |
| 何がなんでも成績は優がとりたい | 0.12 | -0.07 | 0.08 | 0.08 | 0.57 | -0.02 | -0.37 |
| 大学生の本分は勉学に励むことなので、少々の誘惑に負けずに授業に出席する | 0.30 | 0.07 | -0.09 | 0.10 | 0.40 | 0.02 | 0.29 |
| 少し無理だと思われる目標を立てて頑張る方である | 0.10 | -0.12 | 0.30 | -0.15 | 0.37 | 0.29 | 0.41 |
| 大学の中で充実した活動を何かしたい | 0.03 | -0.10 | 0.04 | -0.07 | 0.34 | 0.31 | 0.30 |
| 大学生のうちになるべく遊んでおきたい | 0.12 | 0.06 | 0.14 | 0.07 | 0.10 | -0.39 | 0.24 |
| 伝統的な宗教的習慣にあまりこだわらないで生活する方が良い | 0.06 | 0.01 | -0.01 | 0.08 | 0.10 | 0.35 | 0.19 |
| 古いものは長い間ずっと受け継がれてきたものなので大切にしている | 0.16 | -0.15 | 0.03 | -0.05 | -0.01 | 0.30 | 0.17 |

これまでの過程で、高岡短大生の価値観に関する6つの因子が抽出された。次に、これらの因子からいくつかのタイプによる価値類型を構成してみる。

3.1.2 価値類型の7タイプ

因子分析では、それぞれの学生の傾向を

「因子得点」という形で点数化することができる。例えば、学生Aは「享楽志向」因子の得点は高いが、「学業重視志向」因子の得点は低く……、というように各個人について6つの因子得点を算出できる。

そして、この得点の示す傾向にはいくつかの似通った集まりが出来てくると思われる。

似通ったパターンの者を類型にまとめる手法として「クラスター分析」を行い、その結果、価値観には7類型あることがわかった。図1に示した因子得点の平均値から各類型の因子の傾向をみとめる。

(a) 第1類型

これは、「自己充足志向」が高く、「堅実志向」「学業志向」「伝統志向」が同じ程度の割合で関連を持っている。このタイプは、自分の生活を有意義に過ごすために、学業や自由時間に前向きな姿勢で取り組み、伝統や他者も大切にする志向であると思われる。従って、『学生生活充足型』と命名した。

(b) 第2類型

これは、「享楽志向」と「消極志向」が共に強いことが特徴である。このタイプは、学業よりもアルバイトや流行に興味を持ち楽観的であるが、それを積極的に行動に移すわけではなく、のんびりと無理せず、自分の出来る範囲の中で生活する志向が強いと思われる。従ってこのタイプを『おっとり楽観型』と命名した。

(c) 第3類型

これは、「消極的志向」と「堅実志向」が特に強いタイプであり、生活の様々なことにとっても堅実に対処していくが、自分を

前に出してアピールしようとは考えず控えめな行動をとる志向が強い学生像だと思われるので『堅実控えめ型』と命名した。

(d) 第4類型

これは、「伝統志向」が特に強く、「堅実志向」も強いのに対し、「自己充足志向」がとても弱い。このタイプは、伝統や他者を尊重し、周りに細やかな配慮をしながら生活をしている。しかし、周りのことを考えすぎて自分本来のやりたいことを犠牲にしがちなのが特徴と思われるので、『伝統保守型』と命名した。

(e) 第5類型

これは、「消極志向」と「伝統志向」が特に弱く、「享楽志向」が強いのが特徴で、やりたいことに対し積極的に行動に移し、伝統にこだわらず自由な考え方で取り組む志向が強い学生像だと思われるので、『積極自由型』と命名した。

(f) 第6類型

これは、「堅実志向」「享楽志向」「自己充足志向」が共に弱く、他はいずれも平均的である。このタイプは、自分勝手には行動しないものの、それほど堅実的でもない。周りに流されることをいやだと思いつつも、まあそんなものかと認めている傾向を

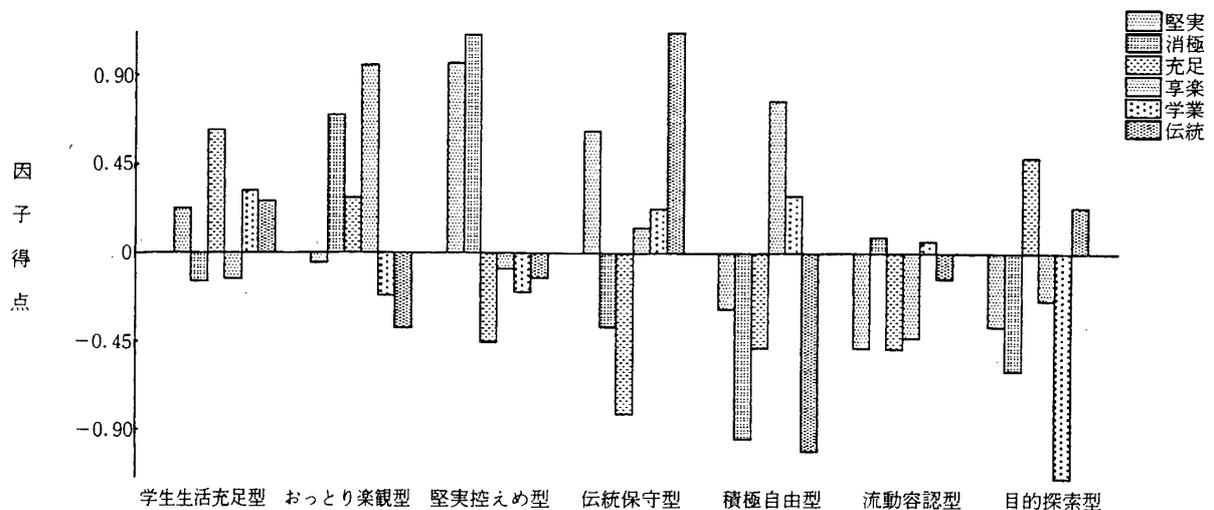


図1 7類型別6因子の平均得点

持っているので、『流動容認型』と命名した。

(g) 第7類型

これは、「自己充足志向」が強く、「学業重視志向」が極めて弱い。このタイプは、学生の本分である学業には興味を示さず、他の目的を求めている志向が強い学生像だと思われるので、『目的探索型』と命名した。

以上、7類型の特徴を見てきた。これらの類型がどの程度の割合で構成されているかを全体、性別、学科別、専攻別に見ていくことにする。

3.1.3 7類型の構成比

(1) 全体

一年生全体での構成を図2に示した。高岡短大生に多くみられるのは、『学生生活充足型』(29.1%)と『流動容認型』(27.6%)であり、約4分の1ずつを占めている。その次が『おっとり楽観型』(12.6%)であり、以下四つの型『目的探索型』(9.0%)『堅実控えめ型』(7.5%)『積極自由型』(7.5%)

『伝統保守型』(6.5%)はほぼ同じ割合になっている。これを見ると、それぞれの志向を少しずつ持っている型の割合が多く、何らかの際立った特徴を持つ型の割合は少ない。

(2) 性別

男女別の構成を図3に示した。高岡短大1年は、男子13.6%、女子86.4%の比率であり、女子の人数がとて多いという特徴を持っている。

全体の比率と比べてみると、『学生生活充足型』と『目的探索型』には男子が多くみられ、『伝統保守型』は男子は一人もみられず、女子のみとなっている。

(3) 学科別

学科別に示したものが図4である。産業工芸学科36.2%と産業情報学科63.8%の比率に対し、『学生生活充足型』『目的探索型』は工芸学科に多く、『積極自由型』『堅実控えめ型』『おっとり楽観型』は情報学科に多くなっている。また、『伝統保守型』は情報学科のみである。

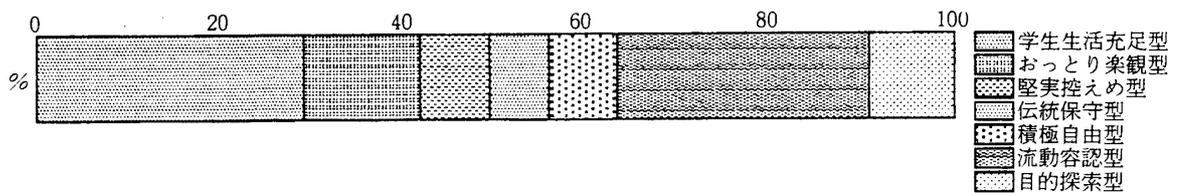


図2 一年生全体の7類型の構成比

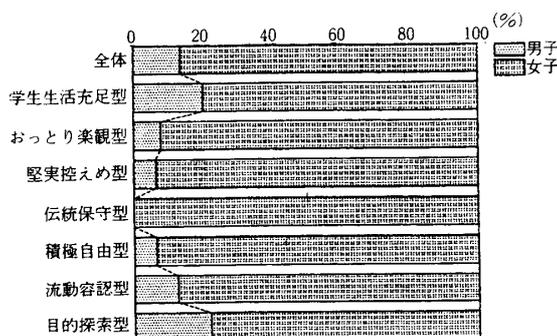


図3 性別からみた7類型の特徴

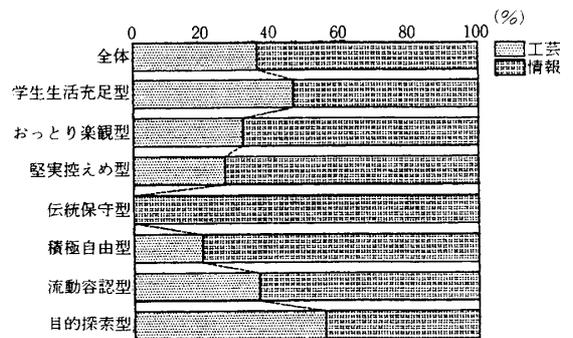


図4 学科別からみた7類型の特徴

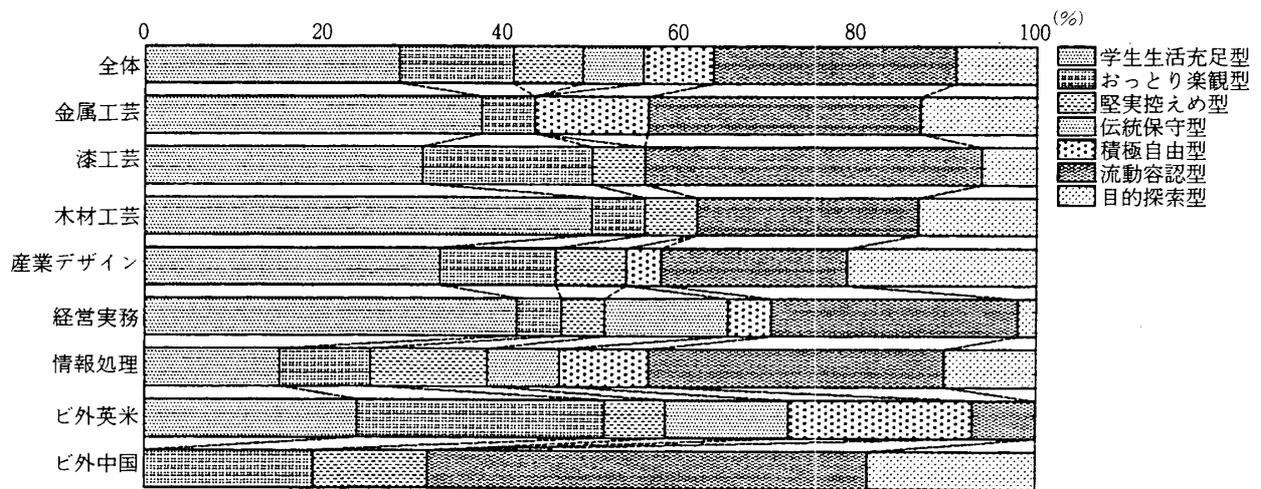


図5 専攻ごとの7類型の構成比

(4) 専攻別

専攻ごとの比率に直して示したのが図5である。いくつかの型にまとまっているのは、金属・木材・ビジネス英語であり、専攻内で価値観の持ち方が似通っていることを示している。反対に、すべての型が混在するのは、経営実務と情報処理であり、多様な価値観の集団であることを示している。また、金属は積極性を持つ型に多くみられ、漆、中国は消極性を持つ型に多くみられる。

高岡短大では、一年生に体育を必修としているため、少なくとも週に一度はスポーツを行う時間を確保出来る。では、体育の時間以外において、どの程度の人が運動に触れているだろうか。

(1) スポーツ活動の有無

全体傾向と7類型別に示したのが図6である。全体では、活動をしている人は33.7%に対し、していない人は66.3%と一年生の三分の二を占めている。類型別にみると、『目的探索型』『積極自由型』には活動している人が多く、『おっとり楽観型』『堅実控えめ型』『伝統保守型』には少ない。

3.2 スポーツライフについて

3.2.1 体育授業以外でのスポーツライフ

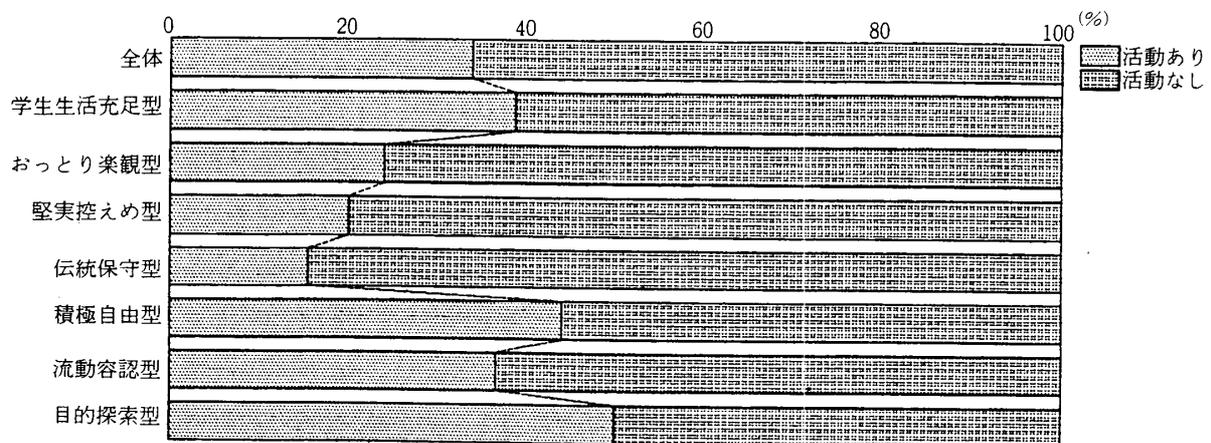


図6 スポーツ活動の有無

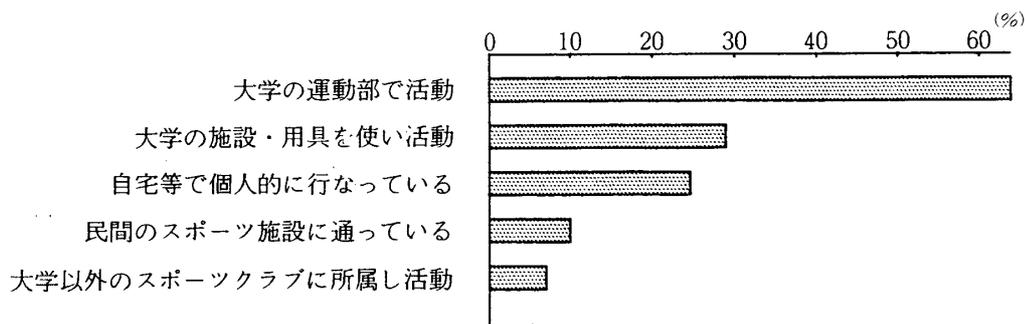


図7 活動している人の活動内容

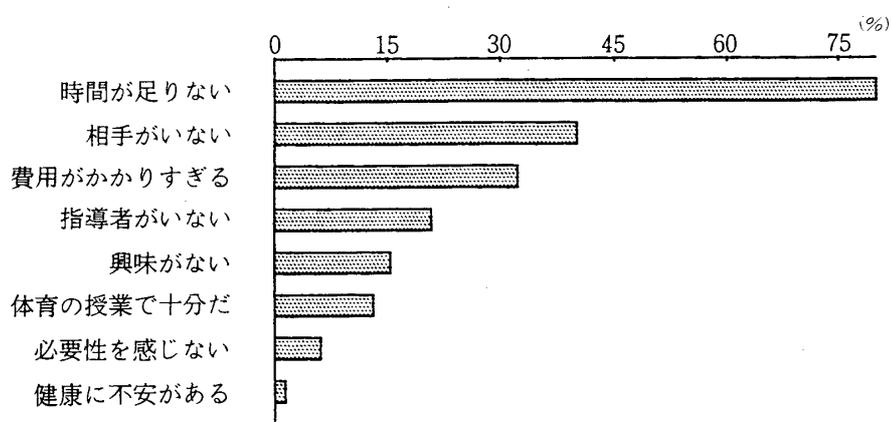


図8 活動していない人の妨害要因

(2) 活動内容

活動している人の活動内容とのべ数を示したのが図7である。一番多い活動は「大学の運動部」(63.8%)であり、次に「大学の施設・用具で個人的に」(29.0%)、「自宅等で個人的に」(24.6%)である。それに対し、大学以外での活動「スポーツクラブ」(10.1%)や「施設」(7.3%)はとても低い比率を示した。これは高岡短大生にとってのスポーツの場は、大学内に重きが置かれていること示しているものと思われる。

(3) 妨害要因

活動していない人にとっての妨害要因を図8に示した。最も多い要因は、「時間が足りない」で(80%)と高い比率を示している。次に「相手」(40%)「費用」(32.3%)「指導者」(20.8%)の要因が続く。

これらの妨害要因を少しでもなくし、活動しやすい環境を整えていく必要がある。そのための一つの手だてとして、大学内のちょっとした空き時間等に気軽に活動できる場と機会を考慮していきたい。履修科目も多く、ほとんどの時間を大学内で過ごす短大生にとって「相手」や「費用」の妨害要因をも同時に排除できると思われる。

3.2.2 体育の授業観

体育の授業についての必要性や履修制度にどんな考えを持っているだろうか。「そう思う」「ややそう思う」と答えた人の比率を肯定率として示した。

(1) 必要性

図9をみると、全体で95%が肯定し、7類型別での一番低い『堅実控えめ型』で

も80%が肯定している。全体的に大学外でのスポーツ活動が少ない分、せめて体育の授業で思いきり身体を動かそうといった傾向が出ていると思われる。

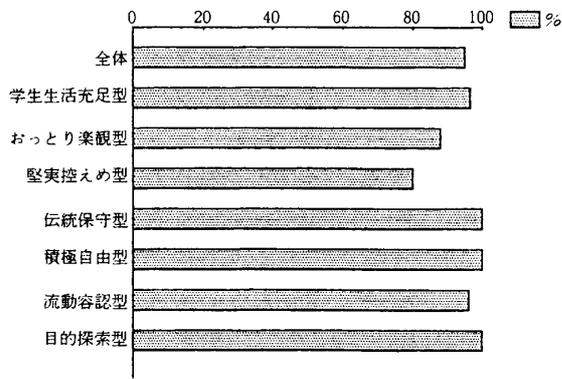


図9 体育の必要性

(2) 履修制度

履修については図10に示した通り、現状の「一年次だけで良い」の肯定率は46.2%であった。また、「二年間の中での選択」(44.7%)や「二年間を通して行いたい」(58.9%)にも肯定があり、このことは将来考慮していく選択肢として挙げられるであろう。また、単位の振り替えについては、「運動部の活動」(9.0%)「民間のスポーツクラブでの活動」(7.0%)の両方とも肯定率はとても低く、現状においては希望していないことがわかる。

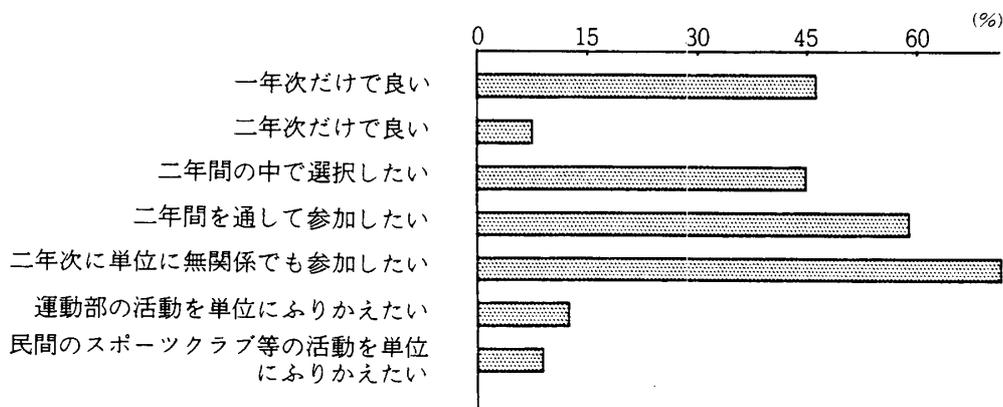


図10 履修の希望

3.2.3 スポーツ観

スポーツに対する思考様式の傾向を知るため、スポーツ・身体活動で過ごす時間について16項目の質問を行い、因子分析した結果を表3に示した。そこからスポーツ観を表す5因子が抽出され、寄与率の高い順に「効用志向」「活動志向」「充足志向」「修練志向」「快楽志向」因子と命名した。各タイプの学生が、これらの因子の傾向をどの程度持っているかを表す因子得点を各タイプごとに平均化し、平均因子得点として図11に示した。

その特徴を見てみると、『積極自由型』ではより積極的な「充足志向」と楽しみたいという「快楽志向」が強く、実利への「効用志向」は弱くなっている。反対に、『堅実控えめ型』にはくつろいだり楽しんだりする「快楽志向」が弱い。『伝統保守型』は他への能力として生かせる「効用志向」と達成感を味わえる「充足志向」が強い。

総じて、積極的な型には、スポーツをやりたいこととして自分の目的にし、楽しんでいく傾向がうかがえる。また、消極的な型には、ストレス発散や気晴らしをスポーツに求めたり、スポーツで培われるものを他への能力として生かしたい傾向を持っている。

表3 スポーツ観に関する16項目の因子分析の結果

(バリマックス回転後の因子負荷量)

| 項 目 | 因子1 効用志向 | 因子2 活動志向 | 因子3 充実志向 | 因子4 修練志向 | 因子5 快樂志向 | COMMUNALITY |
|-------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 仕事に役立つ技術や能力を磨く時間 | 0.75 | 0.05 | 0.06 | 0.12 | 0.08 | 0.92 |
| 社会や人のために役立てる時間 | 0.50 | 0.08 | 0.06 | 0.15 | 0.13 | 0.83 |
| 知識や教養を高める時間 | 0.31 | 0.11 | 0.11 | 0.14 | 0.22 | 0.68 |
| ファッションを楽しむ時間 | 0.24 | -0.02 | 0.05 | 0.23 | 0.03 | 0.75 |
| ストレス発散になる時間 | -0.01 | 0.67 | 0.41 | 0.06 | 0.22 | 0.51 |
| 活動欲求を満たす時間 | 0.09 | 0.56 | 0.08 | 0.01 | 0.21 | 0.59 |
| 健康や体力の増進のための時間 | 0.13 | 0.20 | 0.17 | 0.19 | 0.18 | 0.53 |
| 家族・友人・知人などと人間関係を深めたり、広めたりする時間 | 0.06 | 0.19 | 0.05 | 0.02 | 0.17 | 0.46 |
| 勝利の喜びや達成感を味わう時間 | 0.08 | 0.19 | 0.59 | 0.26 | 0.15 | 0.65 |
| 日常生活から解放される時間 | 0.05 | 0.13 | 0.56 | 0.03 | 0.11 | 0.62 |
| 自己を表現したり個性的になれる時間 | 0.11 | 0.13 | 0.22 | 0.13 | 0.05 | 0.61 |
| ルールに従い規則正しくする時間 | 0.01 | -0.08 | 0.16 | 0.63 | 0.02 | 0.73 |
| 修行研修をつむ時間 | 0.30 | 0.15 | 0.09 | 0.60 | 0.06 | 0.77 |
| くつろいだ気分になる時間 | 0.07 | 0.17 | 0.11 | 0.02 | 0.64 | 0.67 |
| 楽しく時のたつのを忘れる時間 | 0.12 | 0.26 | 0.17 | 0.01 | 0.52 | 0.73 |
| 自然に触れる時間 | 0.02 | 0.03 | 0.03 | 0.06 | 0.22 | 0.47 |

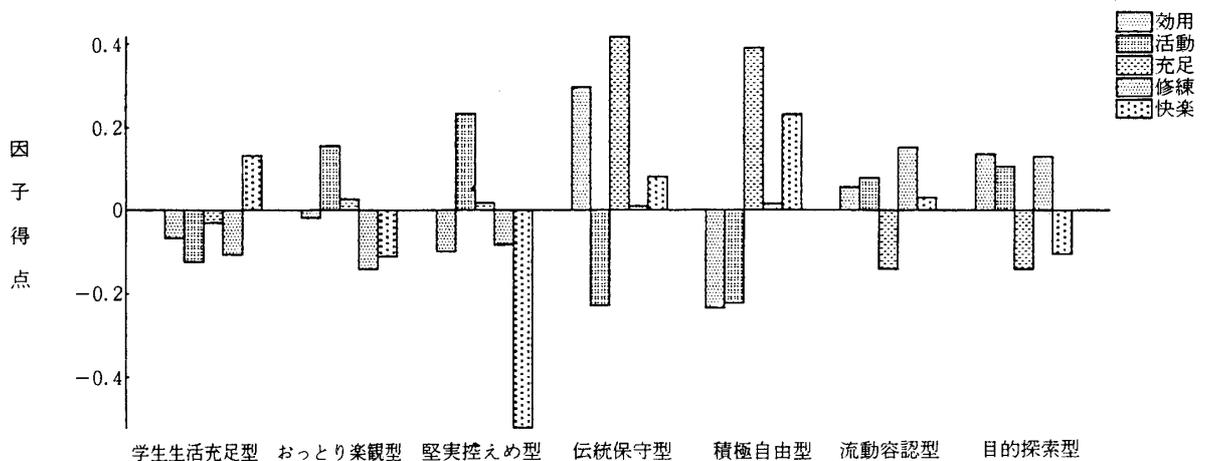


図11 7類型別スポーツ観5因子の平均得点

4 まとめ

価値観の相違により、高岡短大一年生を7類型に分けることが出来た。多くみられるのは、『学生生活充足型』と『流動容認型』であり、約4分の1ずつを占めている。その他『おっとり楽観型』、『目的探索型』、『堅実

控えめ型』、『積極自由型』、『伝統保守型』となった。全体的に活動性の低いタイプが多くなっており、これらの型の構成内容からスポーツ活動の有無を見ると、活動をしている人は33.7%に対し、していない人は66.3%であり、結果として良く表れていると思われる。類型別にみると、『目的探索型』『積極自由

型』には活動している人が多く、『おっとり楽観型』『堅実控えめ型』『伝統保守型』は少ない。

体育の必要性については消極的因子を一番持つ『堅実控えめ型』でも80%が肯定していた。スポーツ観と合わせて考えてみると、「効用」「活動」「充足」「修練」「快楽」を体育の中で望んでいるととることが出来、積極的な型では楽しみや目的として、消極的な型では、ストレス発散や気晴らし、他の事柄に役立つものとして捉えている。これからの体育の在り方を考える際、それぞれの類型の特

徴により、スポーツに望むものが違うことをしっかりと考慮していくべきであろう。また、その反対に、型によって望むものに違いはあるが、それぞれ現代生活に大切なものをスポーツの中に求めており、そのことを授業の中で満喫できるよう工夫していくべきである。

終わりに、研究の分析処理について貴重なご助言を賜った横浜国立大学の伊藤信之先生、分析の過程において多々ご指導いただいた本学情報処理専攻の浅井講師、事業課資料調査係の米川氏に心より感謝申し上げます。

引用文献・脚注

- 1) 伊藤 信之他：“筑波大学生の価値類型とその特徴に関する調査研究”、大学体育研究、13、15-33 (1991)。
- 2) 加藤 敏弘他：“短期大学における保健体育授業の新しい工夫とその考え方 —— 高岡短期大学の実践から —— ”、茨城大学教育学部教育研究所、23、103-112 (1991)。
- 3) 大木昭一郎他：“正課体育と生涯スポーツに関する調査研究報告”、大学体育研究、13、85-148 (1991)。
- 4) 斎藤 隆志他：“筑波大学生のスポーツ活動選好の類似性によるスポーツの分類”、大学体育研究、13、57-84 (1991)。
- 5) 飽戸 弘、松田 義幸編：ゆとり時代のライフスタイル、日本経済新聞社、1989。
- 6) 富山県統計課、富山県統計協会編：富山がわかる本、1992。
- 7) 吉崎 四郎：越中人のこころ、富山新聞社

An Investigation of the Value Styles and Sports Life of Takaoka National College Students

Naoko (UCHIDA) HISAMINATO and Hideo OZAKI

(Received November 6,1992)

ABSTRACT

The purpose of this investigation is to analyze the students' sports life to ascertain the general physical education system and the needs of Takaoka National College. The questionnaires were collected from 199 freshmen. The Factor Analysis Method, analyzing 25 value items, found six factors of value. Cluster Analysis found seven value types, and all students were placed in one of these categories, according to differences in sense of sport and sport behavior.

KEY WORDS

Value styles, Sports life, Physical education, Sports styles